

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2014年6月1日 129号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



パクー稚魚放流！ 左から4、5番目がフランコ夫妻 (2014年4月25日 レダ基地にて)



前大統領フランコ夫妻と説明をするマグノ教授

第二回パクー稚魚放流式典挙行！

快晴の空の下、レダ基地岬の突端で、パクー稚魚二万匹の放流が成されました。二〇一四年四月二十五日、フランコ前大統領夫妻、下院議員二名はじめ、近郊の市長、曾長、現大統領従兄弟の飲料会社社長、マスメディア各社など八機のセスナ機で飛来された多彩なVIPゲスト三十名を迎え、また現地先住民の村から七十名のゲストも牛船で到着、オリンポ市から派遣された十名の警察が警護し、二百名近くの参加者の見守る中、元気な稚魚がパラグアイ川に放流されました。

昨年は現職大統領として来られ、今回が二度目となるフランコ前大統領が、上院議員である夫人を伴い、仲良く式典に参加され、レダの人々にも気さくに対応されて喜びを表していました。

参加者のどの顔も喜びと希望に溢れて、レダ敷地内は笑顔が満開でした。会場もトラクターで整

備され、基地常駐メンバーによつて棧橋も作られました。

オリンポ市には昨年に続き、今年も養殖用に千匹のパクー稚魚を贈呈、これを参加していた市長が受け、人々の大きな拍手を受けていました。

(次ページに続く)

(前ページより続く)

大ホールで式典が開かれ、申顧問、中田理事長、フランコ前大統領、マグノ教授、飯野会長などが、それぞれの立場から挨拶されました。また、ディアナ村学校の生徒によるインディヘナの踊りも披露され、祝いの場を盛り上げました。（飯野記）



雲ひとつない空から次々と飛行機がレダ基地に到着

インディヘナの村から船で到着



一般社団法人南北米福地開発協会の飯野会長が挨拶とメッセージ

第二回 稚魚放流式典 2014年4月25日



昼食会のフランコ夫妻と佐野氏

中田理事長（レダ基地所長）が挨拶

式典で挨拶する申氏（当会顧問）



美味しいアサド料理でみんな満腹

稚魚放流のTシャツを着て

私たちの運動の創始者であられるレバレンド・ムーンは、この貧しい歴史的に見捨てられてきたチャコ地方こそ神様が創造したままの自然が残る、神様が今まで大切に保存されてきた場所であり、今後神様の祝福を大きく受ける土地であるとの確信から、自ら家を借りて住みつつこの地を探索され、このレダの地を購入されました。それ以来私たちはどのようにすればこのパンタナールの自然を保護し、またこの地域に貢献して行けるのかという壮大な課題に取り組んできました。

先住民の村々に学校を建て、この地域に様々な教育支援をする傍ら、植林プロジェクトを通して環境保全に取り組み、またこの地域の経済に貢献する道を模索しながら14年間様々なプロジェクトを試行錯誤してまいりました。またムーン師は地球の七割を占める海、水産資源にこそ人類食糧問題を解決する鍵があると深い信念に基づき、海洋産業を自ら率先垂範し強力に推し進められました。

私たちもこの魚を保護し、育んでいくことこそパンタナールの保護につながり、この地域の持続的発展がもたらされるものと確信し、四年前よりパクーの養殖事業に着手しました。アスンシオン大学水産科のみない協力のもと、二年前にパクーの孵化に成功し、昨年はフランコ大統領ご参席のもと、パラグアイ川に初めて放流を実行でき、今年もまたフランコ元大統領を始め、多くの著名な方々のご参席のもと、再び放流できることを心から感謝いたします。これを機にますますパンタナール保護と地域活性化のために精進してまいりますので、今後とも皆様の温かいご支援をお願いいたします。

★ 中田理事長の挨拶（要旨）

★ フランコ前大統領のスピーチ（要旨）

私を招待してくれたことに感謝します。

昨年は大統領として、半ば義務として来たのですが、今年は自分の意志でここにやつて来ました。

私はチャコを非常に愛しています。

ムーン師が、海の面積は地球の七割を占めるゆえに、海の産業が今後の人類の食糧問題を解決する

ということを語つておられます。私もパラグアイの面積の62%を占めるチャコ（人口は2%）が今後の

パラグアイの発展の鍵であると考えています。それゆえにムーン師がこのような僻地に投資をして、地元の人たちが自立できる道を模索してくださっていることに感謝いたします。

アスンシオン大学の水産学部が、全面的に協力し

てこのプロジェクトを進めていくことにも、感謝します。



プレゼントの冷凍パクーを手にフランコ前大統領と中田所長

★ オリンポ市長のスピーチ（要旨）

（グアラニ語でインディヘナの人たちに語られる。）
アリガトウ。カンサハムニダ。

環境保護になり、そういうプロジェクトが各地に広がればパラグアイは決して食料に困ることはないでしょう。魚の肉は、牛や豚の肉に比べて健康において、パラグアイの国民が魚をもっと好んで食べることになります。



オリンポ市の代表にパクー稚魚1000匹を贈呈

★ マグノ教授のスピーチ（要旨）

レダの人たちは最高の生徒です。いつも指示したことを見実に迅速に実行してくれます。これだけ邊鄙なところでも必要なものをすべてそろえてくれました。それゆえにここにおいて養殖の技術を確立することができました。



アスンシオン大学水産学部マグノ教授

現地の人たちが毎日養殖に携わることによつて技術の移転が地元になされつあります。パクの孵化がここで成功したことによって養殖産業の可能性が一举に拡大しました。レダの人たちからの大学と個人に対する信頼に感謝しています。

放流について

放流に関しては他の魚に食べられる可能性は常に潜んでいますが、放流する魚の大きさは自分を十分に守れる大きさです。また冬に向かうこの時期は魚の動きが徐々に少なくなるので犠牲になる数はより少なくなります。

この放流の放つ魚の15~20%は成魚になり、二年ぐらいで2キロから3キロの親魚になり、一匹が30万個から50万個の卵を産みます。それゆえにここに放つ魚の影響は非常に大きいと言えます。放流の場所は支流と本流の出合うところです。支流で成長した魚が本流に出やすいからです。

ここでの孵化の成功が環境保護と地域経済発展に大きく貢献できる可能性を大きく開きました。今回もオリンポに稚魚を贈呈しますが、この稚魚を地元へ提供することによって、地元の養殖産業の発展の道を大きく開くことになりました。

来年は10万匹の放流によつてさらに大きく貢献できるように期待しています。



中井さんと坂本さん



ディアナ村学生によるパラグアイの踊り



農場でテレビ局の取材を受ける中田所長



オリンポ飛行場に到着した強力な援軍



桟橋造りにも大活躍した水落氏



健康に育ったパクーをご覧ください。

第14回国際協力青年ボランティア隊員募集

期 間：2014年8月25日（月）～9月10日（水）

8/24（日）：オリエンテーション・研修を行います。8/25成田発

活動場所：パラグアイ、パンタナール地域、パラグアイ東部地域

活動内容：サンカルロス村とディアナ村で学校の修復と共同植樹活動及び文化交流、

レダにて奉仕活動、自然探訪、乗馬、釣り体験、パラグアイ東部での植樹活動とイグアスの滝訪問

参加資格：18歳以上25歳まで（原則として）（健康に自信のある男女）

参加条件 ①小論文（400字以内）提出 テーマ：「参加の動機及び将来の夢」提出期限：6/30

提出先：南北米福地開発協会（FAX、Emailも可）②小論文に各紹介者の推薦文を添付すること。（書類は事務局にありますのでご連絡ください。）合格発表：7月5日 直接該当者に連絡致します。

募集人数：10名（日本から） アメリカ、南米から各数名ずつ。

参加費用：15万円 成田～アスンシオン往復航空チケット代は主催者が支援いたします。

（小遣い、家から成田までの往復費用などは個人負担）

申し込み及び問い合わせ先：南北米福地開発協会事務局 担当：柴沼まで

TEL：044-829-2821 FAX：044-829-2820 Email：office@asd-nsa.jp

一般社団法人
南北米福地開発協会事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話 044-829-2821

FAX 044-829-2820

会費納入 郵便口座

10180-77680471

Eメール： office@asd-nsa.jp

ホームページ： <http://www.asd-nsa.jp>

地球家族として、自然を守りましょう

一般社団法人
南北米福地開発協会会員募集中

南米、パラグアイ・パンタナール地域へのエコツアー、ならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。会費は月500円です。

毎月、パンタナール通信をお送りいたします。また、各種のセミナー、エコツアー等へのご案内をいたします。